



ADDS

Advanced Developmental
Disorders Support

特定非営利活動法人ADDS
アニュアルレポート2019

ADDsのミッションをアップデートしました

次の10年を見据えた新しいミッション



**発達支援が必要なすべての人が
自分らしく学び
希望を持って生きていける社会を
ともに実現します。**

「日本に帰って一番辛いことは、我が子への療育環境がアメリカでいた頃のように整わないことかな、と思っていました。でも、帰ってきたら違いました。私がアメリカで体験して学んだようなことを、子どもが幼稚園に入るような年齢まで知らない人が数多くいて、多くのお子さんの可能性が失われていることが一番辛かったです。今も、そのことが一番辛いです。」

これは、共同代表である竹内が学生のとき、自閉症の支援を始めるきっかけとなった保護者の方からのお手紙です。

日本では欧米に比べて、効果が実証されている療育を受けられる環境が不足しています。このような状況を変えるため、早期支援のプログラム開発と効果検証、他機関への実装活動に努めた10年間でした。

その間に、「発達障害」という言葉は社会に広く知られ、障害者自立支援法の改正などをきっかけに通所施設も激増しました。創業当時と比べると、発達障害を取り巻く社会は大きく変化してきています。

それでも、支援の質や情報のばらつきは依然として大きく、子育てに困り感を抱える保護者や現場の支援者からのご相談は絶えません。また、本当の意味でお子さんとご家族の幸せを願うなら、質の高い早期支援を届けるに留まらず、より多くの立場の方と手を取り合い、発達障害を取り巻く社会システムへアプローチする必要があることも痛感しました。

新しいミッションには、療育、福祉、教育の枠にとらわれず、社会の様々な立場の皆様とつながり課題解決をしていくという意志を込めました。



ADDSの理念

保護者とともに 取り組むこと

わたしたちは、保護者は子どもの一番の専門家になれると信じています。子どもが学ぶ過程をしっかりと共有し、その親子らしい学びのスタイルをともに築くことを大切にしています。

研究成果に基づいた 手法を選択すること

わたしたちは、応用行動分析学(ABA)に基づいた支援を行います。ABAは、具体的な目標を立て、達成度を見極め、支援方法を進化させていくPDCAのサイクルを繰り返します。子どもの豊かな学びに徹底的に向き合う方法論です。

社会に変化を 起こすこと

子どもたちは、かかわる人や環境から様々なことを学びます。わたしたちは、すべての人が、子どもたちの良き理解者、支援者となる社会の仕組みづくりに取り組んでいます。



ADDS のあゆみ

出会い

学生時代の

「お話が苦手な幼稚園児に、

遊びの中で言葉を

教えるアルバイトが

自閉症の支援をはじめるときっかけに

学生の立場でできること

学生団体

「慶應発達障害支援会(KDDS)」設立

大学院にて研究・臨床活動

間借り生活

◆ 徹夜のプログラム作成...

◆ 中目黒指導ルーム(日)

◆ 横浜指導ルーム(月)

◆ 六郷土手指導ルーム(日)

2003

2006

2009

2010

2011

鎌倉指導ルームOPEN

- ◆ 3事業所目「ADDS Kids 1st 鎌倉」開所
- ◆ AI-PAC実装公募説明会
- ◆ 実装機関が10機関へ

保護者主体の療育を社会へ

- ◆ 任意団体「ADDS」の設立
- ◆ 「早期療育スタートアッププロジェクト2009」
- ◆ 学生セラピスト部第1期生スタート
- ◆ NEC社会起業塾8期生に選出

恵比寿時代/NPO法人化

- ◆ 恵比寿指導ルーム
- ◆ 「早期療育スタートアッププログラム」提供数増加
- ◆ 他事業者へのセラピスト養成研修提供開始

2018

2019

2020

2019年度戦略的創造研究推進事業
「科学技術イノベーション政策のための
科学研究開発プログラム」に採択

NEW

江戸川区発達相談・支援センター

OPEN(指定管理事業)

<https://edo-hssc.jp/>

クラウドファンディング READYFOR

「コロナに負けない。駆込み発達相談プラットフォームを
立ち上げたい」プロジェクト目標達成

新たな挑戦

- ◆ 情報発信サイト
～ Hütte ～イベント開催
- ◆ Hütteカフェ(先輩ママ座談会)
- ◆ 謎解き×自閉症体験プログラム
「88ぶんのI」
- ◆ 「ぺあすく」開始
- ◆ 保護者向け
E-learningプログラム開発

有効な支援を全国へ

- ◆ 「ぺあすく」各地への実装スタート！
- ◆ 課題構成システム「AI-PAC」開発完了
- ◆ ミサワホーム・セントスタッフ放課後等
デイサービス「ミライエ」技術提携
- ◆ 三菱財団社会福祉事業・研究助成採択
- ◆ 自閉症啓発デー参加開始

新宿指導ルームOPEN

- ◆ 新宿指導ルーム開所
- ◆ 「児童発達支援事業」スタート
- ◆ はじめて職員が入社

2013

2014

2015

2016

2017

荻窪指導ルームOPEN

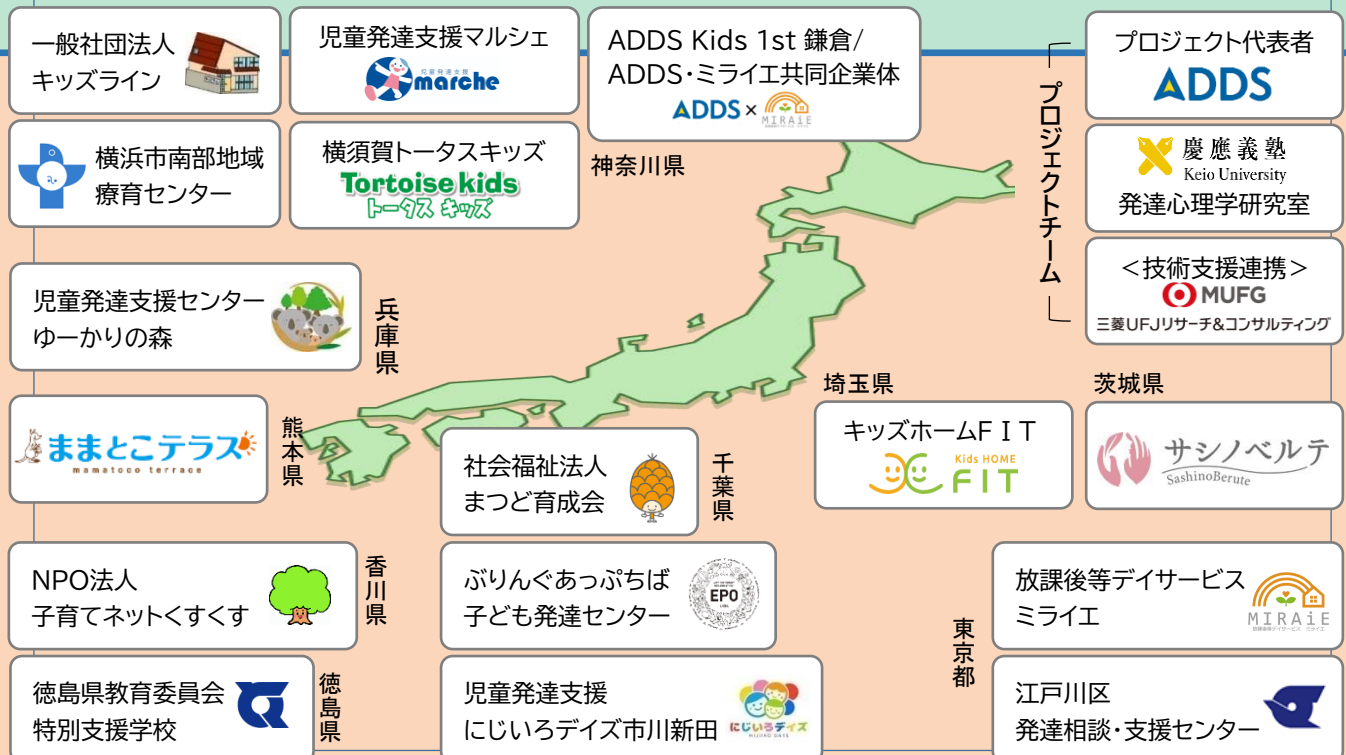
- ◆ 2事業所目「ADDS Kids 1st 荻窪」開所
- ◆ 「発達の気になる子と家族の勉強会」

研究と支援のひろがり

- ◆ 「早期療育スタートアッププログラムVer.2」開始
- ◆ 「ぺあすく」のレギュラー化
- ◆ NHKあさイチ発達障害特集
- ◆ JST/RISTEX「研究開発成果実装支援プログラム」に採択

<全国に広がる連携機関>

エビデンスに基づいて保護者とともに取り組む発達障害児の早期療育モデルの実装PJ



社会の大きな変化の中で新しい支援の形をともに創り上げます

私たちが自閉症の早期療育に出会った頃、日本では「療育」という言葉もあまり知られていない状況でした。家庭療育のアルバイトの経験を通して、「学生の立場でもできることがある」と学生団体KDDS（慶應発達障害支援会）を立ち上げたのは、学部4年の春でした。高田馬場の改札前、帰り際の立ち話が何十分も延長されて、構想がどんどん膨らんでいったのを覚えています。大学院修士課程を修了し、二人そろってうっかり博士課程の願書を出し忘れ途方にくれたとき、いつか事業化するなら「今」なのでは？とゼミの後輩を巻き込んでADDSを立ち上げることになりました。当時は、とにかく子どもたちの成長とご家族のひたむきな努力と、そこから生まれる親子の信頼と絆に心打たれ、「こんな親子の成長と絆を全国に広げたい」と無我夢中でプログラムを作り提供していたのです。それから10年以上が経ち、発達障害への理解は徐々に広まりつつあります。社会制度は変化し、障害児の通所施設が全国に急増しました。様々な事業を通じて、法人の規模も少しずつ大きくなりました。

一方で、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大は、社会全体に深刻な影響を及ぼしています。感染被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、感染拡大防止にご尽力されている医療関係者をはじめ多くの皆様には、心から感謝申し上げます。昨年秋に創立10周年記念パーティーを開催し、80名を超えるサポーターの皆様にご挨拶を合わせてお礼を申し上げます。

ができたことが、どんなに貴重な機会だったかを身に沁みて実感しています。そして、緊急事態宣言下でも、様々な形で支援を模索し提供し続けてくれた現場の職員にも、改めて感謝を伝えたいと思います。療育の現場では、感染予防をしながらも療育支援を滞らせないための取り組みにスタッフ一丸となり向き合ってきました。その一つの成果として、緊急事態宣言下での厚労省の迅速な判断により、保護者向けオンラインコンサルテーションが児童発達支援の報酬算定対象として臨時に認められたことは大きなニュースでした。また、乳幼児検診の休止や外出自粛の影響で発達支援の情報が届きにくくなっている状況を受け、誰もが駆け込める新しいプラットフォームを創ろうという想いで、オンライン発達相談サービスの開発を始めました。開発のために行ったクラウドファンディングでは136名もの方からご支援をいただき、企業様からも助成をいただくことができました。誰もが大変な状況にもかかわらず、私たちの試行錯誤にご理解とご協力を下さった保護者の皆様、突然の変化に直面しながらもたえず笑顔を見せてくれた子どもたち、経営支援をいただいたメンターの方々をはじめ、ご支援をいただいた全ての皆様に、改めて心から感謝を申し上げます。

今後は、データサイエンスを活用した「臨床の知」の体系化や地域への展開、行政への働きかけなどに、またひたむきに取り組んでいくとともに、コロナ禍での学びを生かした新しい支援の形も、皆様と共に模索し創り上げていきたいと思っております。引き続き、温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



共同代表

熊仁美
竹内弓乃

保護者研修・ 家庭療育 サポート事業

ご家庭で療育に取り組むお手伝いをします。

- 早期療育スタートアッププログラムVer.2
- 親子で学ぶ療育プログラム「ぺあすく」
※児童発達支援事業(通所受給者証適用)
- e-learning形式の療育講座「ネットdeぺあすく」
- 初級ABAセラピスト紹介サービス

「保護者は子どもにとって一番の理解者であり
支援者である」という信念と、
保護者の皆様への深い信頼と尊敬から
生まれた小さなプロジェクトが、
10年をかけて全国に広がりました。



2009年任意団体ADDSの立ち上げとともに始まった「早期療育スタートアッププロジェクト2009」は、「早期療育スタートアッププログラム」として、中目黒、横浜、六郷土手、恵比寿と様々な場所で開講し、参加家庭数が増えていきました。2013年からは新宿に本部を移し、障害児通所支援事業の枠組みを適用することで、保護者の経済的負担の軽減と、質の高い療育支援の両立が可能となりました。さらに、セラピストの高い専門性と経験値に依存したプログラムから、体系化された研修と課題データベースの活用によって、より多くの支援者が実施可能な広がりのあるプログラム「ぺあすく」へと進化を遂げました。

ADDSの保護者研修プログラムは、現在までに500家庭以上が参加しています。ADDS以外で「ぺあすく」を受けられる機関は13機関になりました。これからも、現場での質の高い支援の実践と、それを全国のご家族へ届けるための仕組み化を追求します。



支援者 育成事業

アカデミックなバックグラウンドと豊富な臨床経験を活かし、様々な方を対象に研修をおこなっています。

- 初級ABAセラピスト養成研修
一般コース/学生セラピストコース
- 療育機関向けスタッフ研修、コンサルテーション
- 教職員向け研修、コンサルテーション等

ADDS学生部を卒業した学生セラピストたちは
社会へ出て未来の支援者に。

初級ABAセラピスト養成研修はこれまでに
100名以上が受講。

創業当時から「支援者の学びの場」という機能を大切に、
ネットワークは全国へ。



初めは自分たちも「学生セラピスト」だった経験から、保護者と良いチームになることができれば、学生にもできることがたくさんあると実感していました。ADDS学生セラピスト部はこれまでに90名以上の卒業生を輩出してきました。

早期支援の重要性と子どもの可能性を肌で感じ学んだ卒業生たちが、教育・福祉分野をはじめ社会の様々な領域で活躍しています。

初級ABAセラピスト養成研修は、すでに現場のある外部の支援者の方を対象に、これまでに100名以上に受講いただきました。修了後1年間のフォローアップを経た認定制度をつくり、積極的な学びのコミュニティとなっています。



東京、神奈川、埼玉、千葉、兵庫、香川、熊本など全国各地の療育機関へ人材研修と療育プログラムを提供し、たくさんの心ある事業者様と出会いました。エビデンスベースで繋がる支援機関のネットワークづくりも進行中です。

研究開発・ 普及啓発事業

療育プログラムやその成果に関する研究成果を発表するとともに、広く社会に向けて普及啓発を行っています。

- プログラムの成果測定、データの分析
- シンポジウム等を通じた研究成果発表
- 自閉症体験ワークショップ
- 自閉症体験ワークショップインストラクター養成
- 自閉症啓発イベントへの参加
- 家庭療育についての情報発信イベントの開催

子どもの変化を可視化し、支援の質の維持向上と社会への発信を。
支援現場と研究領域の橋渡しに。
講演活動や自閉症の感覚特異性の体験研修も。

早期療育との出会いは、支援リソースの少ない日本で米国の最新の知見を取り入れて家庭療育に取り組む沢山の親子でした。一方で、専門性を高めるためにと進んだ心理学の研究室で指導教授や多くの仲間と出会いADDISが生まれました。「家庭」という最も当事者に近い場所で早期療育の極意と保護者の熱意、子どもの成長を肌で感じ、研究室では世界水準の研究に触れ、エビデンスベースの重要性を知ることができたという、特殊な経歴をもつのがADDISです。

現場で蓄積してきたデータを研究の形でまとめることで、自組織の支援の質の維持向上に役立てるだけでなく、広く社会へ発信することや支援の再現性を高めることにつながりました。

その一つの成果がJST/RISTEXの研究プロジェクト採択でもあります。

また、講演や自閉症の感覚特異性の体験研修を通して、平成30年度にはのべ400名以上の方へ、自閉症への理解や適切な関わり方、早期支援の重要性について伝えることができました。



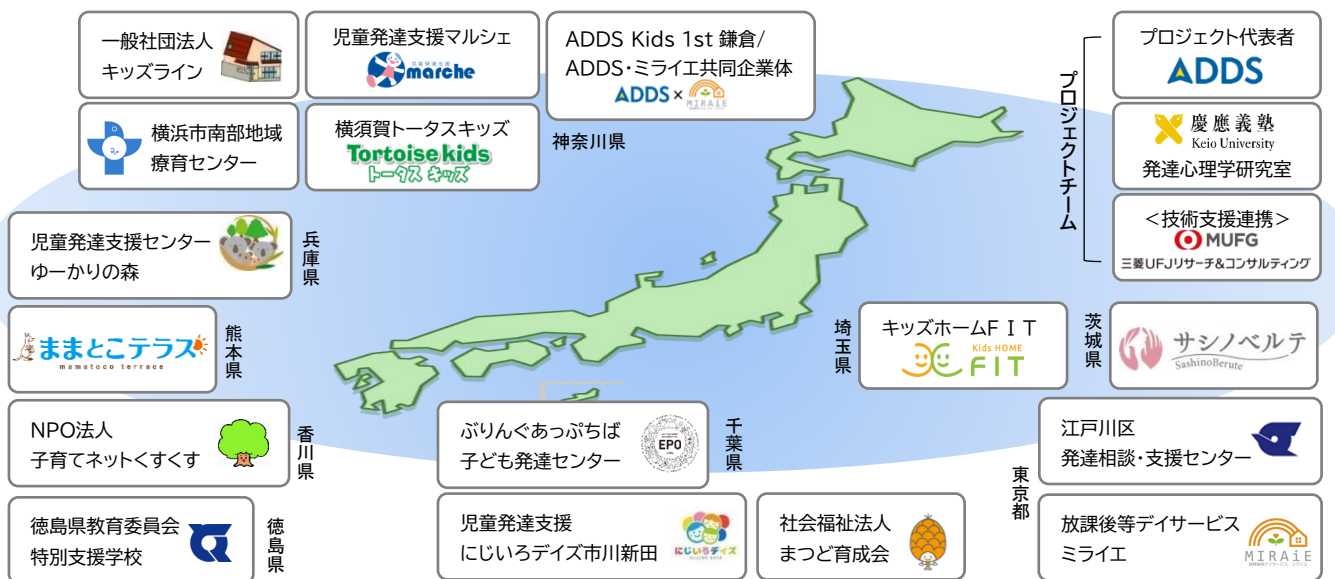
「エビデンスに基づいて保護者とともに取り組む発達障

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)/社会秘術研究開発センター(RISEX)によるH28年度戦略的創造研究推進事業研究開発成果実装支援プログラムに採択をされた本プロジェクトがとうとう終了いたしました。このプロジェクトでは、関東から、遠くは九州・四国にいたるまで、全国の親子へ支援を届けることができました。想いある支援者の皆さまと手を取り合って、科学的根拠に基づいた発達支援が、当たり前に行われる社会の実現を目指した3年間の成果を、報告させていただきます。

■成果1 全国16の機関と連携し、約350家庭に「ぺあすく」を提供

プロジェクト開始当初は、4拠点だった連携機関が、3年間で16拠点まで増加しました。連携先は、民間の児童発達支援事業所や、放課後等デイ、特別支援学校、療育センターなど多岐にわたりました。各連携機関の先生方との連携により、350もの親子に親子共学型の早期療育プロ

グラム「ぺあすく」を届けることができました。早期から家庭と支援者が積極的に協働し、ABAに基づいた療育に取り組む「ぺあすく」。本プロジェクトを通じて、多様な地域、多様な拠点への実装が可能であることが分かりました。



■成果2 早期療育プログラムが子どもたちの発達を促進、保護者の自己評価の改善にも効果

「ぺあすく」を受けた220家庭の評価の結果を解析しました。「ぺあすく」を受けたグループ(187名)と、ぺあすくを「待機」中のグループ(33名)の発達の变化を比較したところ、「ぺあすく」グループは、お子さんの言語-社会性や認知-適応領域のスコアが有意に改善しました。対して、「待機」グループは、有意な変化はみられませんでした。また、保護者の育児ストレスや、子育てにおける自己評価をはかったところ、「ぺあすく」グループのストレスは変化がなく、自己評価は有意な改善が示されました。「待機」グループは、ストレスも、自己評価も有意な変化はありませんでした。このことから、「ぺあすく」のように家庭療育に取り組

むプログラムも、育児ストレスをあげることはないばかりか、子育てにおける自信を向上することが示されました。



「害児の早期療育モデルの実装」プロジェクト最終報告

成果3 公的機関への初の本格実装。江戸川区発達相談・支援センター開設

2020年4月に開所する「江戸川区発達相談・支援センター」の指定管理事業者にADDSが選定され、公的な機関で、「AI-PAC」や「べあすく」が本格的に実装されることが決定いたしました。未就学児の療育を行う児童発達支



写真中央: 齊藤 猛 江戸川区長

援センターと、全年齢に対応する発達障害相談センターの2つの部門が一体的に運用され

る新しい拠点です。ライフステージに応じた切れ目のない相談・支援を行い、「発達に特性のあるすべての人が自分らしく豊かに暮らせる地域づくり」を目指します。また、初の自治体モデルとして成果を示すことで、他地域への展開も目指してまいります。



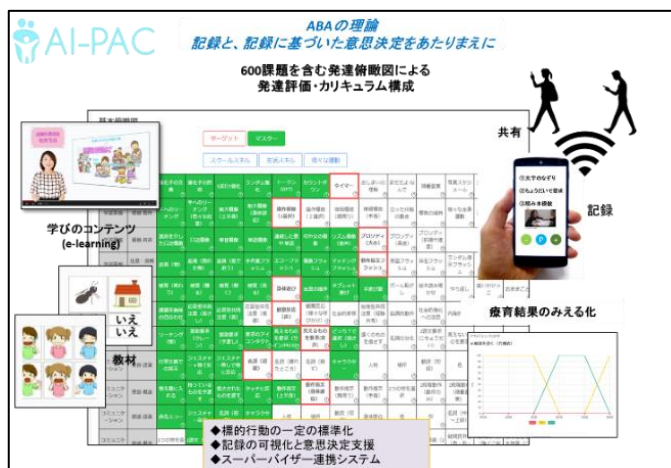
成果4 プロジェクトの遺伝子を引き継ぐ—EDS—NETの設立、“発達と学びのビッグデータ構想”

3年間のプロジェクトで得たもの—ありがちですが、それはやはり、「ひと」とのつながりだと感じています。連携させていただいた、16の拠点の皆さまには、プロジェクトを進めるにあたり、本当に様々なご尽力を頂きました。「地域の親子に良い支援を届けたい」という一心で、ともに活動した3年間。素晴らしい出会いへの感謝とともに、継続的な連携につなげていくため、「エビデンスに基づいた発達支援ネットワークEDS—NET」を設立いたしました。今後は、定期的なシンポジウムや研修開催、「実装公募説明会」などを通じて、モデルとなる実装先を増やしていくこと、

そして連携機関を拠点としたさらなる支援の拡大を目指してまいります。また、「オープンサイエンスに基づく発達障害支援の臨床の知の体系化を通じた科学技術イノベーション政策のための提言」では、AI-PACに蓄積された記録・データが、ビッグデータとして解析され、さらに当事者や支援者に還元されていくシステムを目指した研究開発を行ってまいります。学びのデータをどう利活用していくか、「子供を真ん中に」を掲げて、進めていきます。



「エビデンスに基づいた発達支援ネットワークEDS—NET」



プロジェクト終了にあたって

ここまで大規模なプロジェクト運営をするのは当法人にとっても初めての取り組みでした。色々と手際が悪い中、いつも前向きに協力してくださった連携機関代表者の皆様、子ども達や親御さんと日々向き合い、真摯な支援を提供して下さった現場の先生方、実装責任者をはじめ連携機関の皆さまを常にエンパワメントして下さった山本淳

一先生、神尾陽子先生、実装を丁寧に支援し沢山の学びを下さったRISTEXの皆様、そして最後に、本プロジェクトを信頼し参加して下さったすべてのお子さん、親御さんに、心からの感謝を申し上げますとともに、この成果をさらに発展させていくことで、子ども達を取り巻く社会の変化に貢献してまいります。本当にありがとうございました。

「オープンサイエンスに基づく発達障害支援の臨床の知の体系化を通じた科学技術イノベーション政策のための提言」プロジェクトが始まりました

戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)「科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム」に採択をされたプロジェクトが、R1年度より開始いたしました。

プロジェクトの目指すこと

「早期にどのような発達支援をするべきか」という問いに対して、様々なエビデンスの蓄積が進んできました。ABAに基づいた支援はその1つですが、実際に理論を現場に適用する際は、支援者がお子さんやご家庭に合わせて細かな意思決定を繰り返すことで最適化を図っています。この個別最適化に関してのエビデンスを明らかにしていかなければ、すべての子どもたちが質の高い支援を受けられる社会の実現は難しいというのが、本プロジェクトの基となる想いです。お子さんにとっての利益が個別に最適化・最大化されることを目指し、データの利活用の観点から研究を進めます。

具体的な取り組み

- ①データに基づいた「臨床の知」の可視化: AI-PACやVR研修などを通じて、療育に関わるデータを蓄積します。お子さんが受けた支援や行動の変化を個別にデータ化することで「臨床の知」の可視化を目指します。
- ②市民が主役の事例研究プラットフォーム構築: 現場での事例研究を蓄積していくプラットフォームの構築を行います。様々な支援データが、多様な現場で活用されることを目指しています。
- ③バーチャル政策委員会による議論と提言: 有識者の方にご協力いただき、「発達障害支援の臨床の知の体系化を通じた科学技術イノベーション政策」推進を目指した議論を行い、政策提言をまとめていきます。

R1年度の成果

VR研修システムの機能設計を行い、受講者の傾向分析や、研修のフォローアップの受講履歴とフォローシステムなどの構築を目指した機能設計を行いました。



また、オンラインのキックオフイベントも行い、本プロジェクトの概要説明や、山本淳一先生の講演、パネルディスカッションを行いました。約80名の方が参加して下さい、アンケートを通じて本プロジェクトへの期待を寄せて頂きました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、先端的な拠点視察が難しくなるなど、進捗への影響はありましたが、オンラインインタビューを活用するなど、工夫をして進めています。また、来年度の報告を楽しみにして頂ければと思います。



法人創立10周年記念パーティーを 開催しました！



ADDSは、2019年4月をもちまして、法人創立10周年を迎えました。そこで、2019年10月14日(月祝)にLOFT7 Shibuyaにて10周年記念パーティーを開催し、これまでご支援くださった全ての皆様へ深く感謝申し上げるとともに、この10年の事業報告と次の10年へ向けた展望をお話しさせていただきました。

ゲストの皆様の素敵なスピーチ、学生時代に療育に関わらせていただいたお子さんが立派に成長され、ADDSをイメージして作曲してくれた(!)曲のピアノ生演奏、学生セラピストOBOGからのメッセージビデオ、ハロウィンシーズンにあやかり後半は理事が妖怪になるサプライズで登場したところ、なぜか会場の方が(職員も!)全員理事のお面を被るというシュールなサプライズ返しなどなど盛り沢山の、本当に楽しく温かい素晴らしい時間でした。ご参加くださった皆様、ご寄

付でご支援くださった皆様はじめ、ADDSを見守ってくださるすべての方へ、改めて深く御礼申し上げます。

組織規模の拡大や社会的責任の高まり、発達障害を取り巻く社会の状況も大きく変わりつつある中で、次の10年をどう描き、精度高くかつ思い切って舵を切っていくか。10年前は遠い話と思っていた他機関とのネットワークづくりや行政との連携も目の前に迫る現実的課題となり、新たなステージへ怖さ半分ワクワク半分で向き合っていくADDSを、これからも温かく見守っていただければ・・・そして時に手を差し伸べてくだされば幸いです。



クラウドファンディングで136名の方から ご支援をいただきました！

#社会にいいこと #子ども・教育 #医療・福祉 #発達障害 #新型コロナウイルス

コロナに負けない。駆込み発達相談プラットフォームを立ち上げたい

 NPO法人ADDS



支援総額

1,399,000円 目標金額 1,000,000円

支援者 募集終了日
136人 **2020年7月20日**

プロジェクトは成立しました！

[シェア](#) [ツイート](#) [LINEで送る](#) [noteで観](#)

プロジェクトの相談をする
2

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、乳幼児健診の休止など、様々な教育・福祉の受け皿は機能不全に陥りました。今後もしばらくこういった状況が続く中で、我が子の発達が気になっても、調べる、電話する、出向くことのハードルが高くなっています。不可逆的な子どもたちの発達機会が失われてしまう可能性や、リズムの変化による子どもたちの負荷、家族全体の孤独感やストレス、そして虐待等のリスクなど、コロナ以前から存在していた様々な課題・障壁が、一気に表面化した印象です。

そこで、ADDSでは、まずは相談し、支援につながるための「距離」や「手間」そして「心理的」な

ハードルを越えることを目指し、オンラインで気軽に発達相談ができるサービスの立ち上げを決めました。この新規サービスを開始するにあたり、「駆込み発達相談プラットフォームを立ち上げたい」というクラウドファンディングのプロジェクトにより皆様にご支援を呼びかけ、136名の方から、総額1,399,000円のご支援をいただきました。さらに、みてね基金様より9,198,400円、新型コロナウイルス感染症：拡大防止活動基金様より10,998,000円の緊急助成をいただくことが決定しました。皆様にいただいたご支援を、必ず全国の支援が必要な親子へ還元できるよう、チーム一丸となりプロジェクトを推進します。

●活動実績● (一部抜粋)

■ 2009

2009年8月～2010年3月 NEC社会起業塾第8期生選出、

11月「特報首都圏～根付くか、ソーシャルビジネス～」NHK放送

■ 2010

5月「発達障害児 学生が指導」読売新聞、5月12日夕刊掲載

8月「自閉症児の可能性を最大限に伸ばす社会を」日経ウーマンonline、8月9日掲載

12月「～その問題解決に私たちが出来ること～」慶應義塾大学季刊広報誌「塾」

12月「夢は社会起業家」朝日新聞朝刊掲載

内閣府地域社会雇用創造事業ソーシャルベンチャースタートアップマーケット第1期選出

■ 2011

5月「凛たる女性」の肖像(5)、PHP出版、「VOICE」2011年5月号

■ 2012

7月「キーワードはシンプル&ドラマチック。学生セラピストと一緒に、自閉症の子どもの可能性を広げる」greenz.jp インタビュー記事掲載

12月 一般講演「自閉症児のコミュニケーションと情動～NPOにおける実践と研究～」第2回日本情動学会大会

■ 2013

1月 公開講座「発達障害児のためのABA早期療育の現在」ABA療育エージェンシー連絡会& NPO 法人つみきの会共同主催

2月 応用行動分析に基づいた自閉症の早期療育支援～NPOにおける実践と研究～ 日本行動分析学会ニューズレター、69号

4月 トークライブ「社会を動かす起業家と語る、女性の新しいワークスタイル」NPO法人ETIC主催

7月 招待講演「自閉症を取り巻く全ての人を支援者に-保護者と学生へのセラピスト研修」第2回日本小児他職種研究会

8月 準備委員会企画シンポジウム『発達・教育支援におけるエビデンスにもとづいた実践』日本教育心理学会第55回総会

11月 平成25年度 発達障害に関する教職員の専門性向上事業に係る秋期集中トレーニング 徳島県教育委員会主催

■ 2014

7月「認知・感情・適応の心理学」特別招聘スピーカー（同志社大学）

7月「自閉症スペクトラム特集-民間施設 成長に応じ療育」読売新聞医療ルネッサンス、7月9日記事掲載

10月 ワークショップ5「ABA」演者 第55回日本児童青年精神医学会総会

■ 2015

4月 第38回 社会事業家100人インタビュー～自閉症支援に効果ある手法を実証して拡げる～

5月 子供の可能性を伸ばすもの・あそび・ならいごと 特集 祥伝社「nina's」

5月 人事院初年度研修「社会の変革に挑む起業家の取り組みに学ぶ」内閣府

8月「心の健康を守る(2) 発達障害の体験会」読売新聞 医療ルネッサンス 8月20日掲載

8月「発達障害を疑似体験 教育現場へ」NHKおはよう日本8月28日放送

9月 ケースで学ぶ行動分析学による問題解決 子育て・保護者支援②執筆、金剛出版

11月「優れた療育法 教育に導入」読売新聞医療ルネッサンス、11月25日記事掲載

12月 特集/発達障害における早期療育の必要性(寄稿)、アスペ・エルデの会、アスペハート41号

■ 2016

1月「壁を壊す(1)自閉症を疑似体験」神奈川新聞、1月21日掲載

4月「自閉症の子供の療育を支援、イノベーション女子」経済誌FORBES JAPAN掲載

4月「子供の発達障害、早期発見が大切 社会的自立へ支援広がる」日本経済新聞、4月20日掲載

6月「ほめて伸ばす！子供の発達障害」NHK あさイチ放送

11月「うちの子、少し違うかも～発達障害に対する適切療育・支援のための研究開発～」科学技術振興機構主催 サイエンスゴアラ2016

■ 2017

内閣府「社会的インパクト評価イニシアチブ」東京会場互選選出

8月 一般社団法人日本行動分析学会2017年度学会賞(実践賞)受賞

9月「音と光の動物園」東京藝術大学・ベネッセこども基金と共に開催

11月「うちの子、少し違うかも…II ～エビデンスに基づく発達障害支援をみんなで考える～」科学技術振興機構主催 サイエンスゴアラ2017

12月「エビデンスに基づく早期療育モデルで描く未来 -地域で拓く親子の可能性-」開催、RISTEX実装プロジェクト公開シンポジウム

■ 2018年

4月「日本における発達障害児の早期療育の展望～エビデンスに基づく早期療育モデルで描く未来～」発達障害の支援を考える議員連盟総会 研修会講師

4月 世界自閉症啓発デー啓発DAY 東京タワー発達障害体験ブース出展

9月 2018年度チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞入賞

12月「エビデンスに基づく早期療育モデルで描く未来vol2-親子の幸せを科学する地域療育の挑戦-」開催、RISTEX実装プロジェクト公開シンポジウム

2018年度ドコモ市民活動団体助成事業 採択シンポジウム

■ 2019年

6月「社会起業家の子育てと仕事って？子連れ出勤、ワンオペ育児など試行錯誤の日々を大解剖～」DRIVE掲載

7月 横須賀市教育委員会生涯学習課人権啓発講座「子どもと人権」第1回発達障害がある子どもたち、その理解と支援」講師

10月「オープンサイエンスに基づく発達障害支援の臨床の知の体系化を通じた科学技術イノベーション政策のための提言」JST/RISTEX科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム採択

10月 ADDS創立10周年記念イベント開催

12月「実践に基づくエビデンスでつながる発達障害の早期支援エコシステムの構築」開催 RISTEXプロジェクト公開シンポジウム

■ 2020年

2月 江戸川区発達相談・支援センターキックオフシンポジウム開催

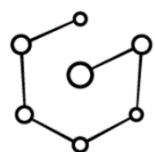
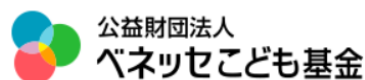
3月「テクノロジー×福祉が描く未来社会～臨床の知の体系化を目指して～」開催 RISTEX科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム公開シンポジウム

4月 江戸川区発達相談・支援センター開所

ADDSを支えてくださった

企業・団体のみなさま

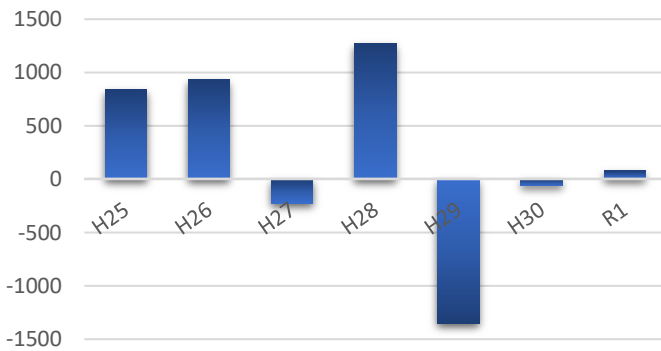
(一部ご紹介・順不同)



2019年度 財務報告

＜データの前提＞特別非営利法人ADDSは「発達支援の必要なすべての人が、自分らしく学び、希望を持って生きていける社会をともに実現します」というミッションを掲げ活動しています。利益は継続的に支援と研究を続けていく為に必要不可欠なものであると考え、本ページにおいて財政情報の開示を行い、経営の透明性を高めてまいります。 ※会計年度変更により、令和元年度は、令和元年11月1日から令和2年3月31日までとなります。

利益の推移 (単位万円)



新宿事業所の移転や閉室に伴い、H29年度及びH30年度は減益が重なりましたが、通所支援事業の稼働率回復や、寄付金、AI-PAC実装事業開始などにより、令和元年度の純利益は463,685円となりました。皆様に広くご支持とご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。これからも安定した収益を目指し、継続的な支援事業と研究に役立ててまいります。

普及啓発事業 コロナ禍でイベントの中止など啓発活動が困難な状況となりましたが、ミッションの実現に不可欠な事業である為、引き続き広く社会に働きかけてまいります。

支援者育成事業 実装機関向けに、人材研修やコンサルテーションを行い、68万円の収益となりました。

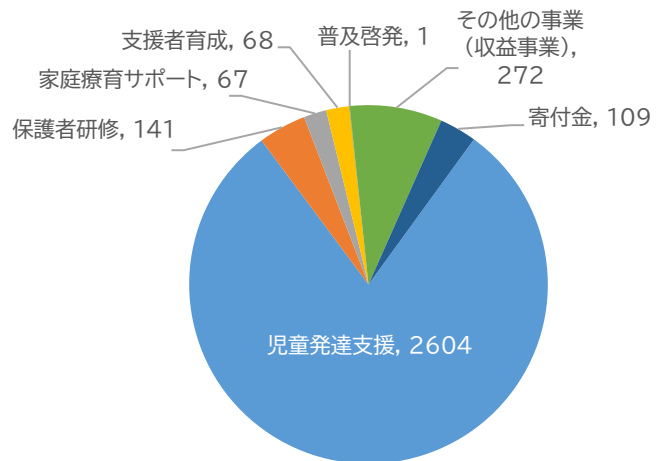
家庭療育サポート事業 3名の学生が4家庭に対して家庭訪問型の支援を行い、67万円の収益となりました。

保護者研修事業 月1回の保護者向け集合研修の実施とコンサルテーション、45家庭より保護者会会費を納入いただき、141万円の収益となりました。

児童発達支援事業 安定して利用者様に通所いただき、4か月間で2,604万円の収益となりました。

その他の事業(収益事業) RISTEX事業で開発が完了したAI-PACの事業を助成期間終了のため独自事業として引継ぎ、収益は272万円となりました。

主要事業別収益(単位万円)



令和元年度 活動計算書			
科目	金額	科目	金額
経営収益		経常外収益	
1 受領寄附金	1,090,588	1 当期経常増資額	4,180,954
2 受領助成金等	62,493,848	経常外収益計	4,180,954
3 事業収益	31,550,189		
経営収益計	95,134,811	経常外費用	
経営費用		1 固定資産除去額	3,133,069
1 事業費	76,285,530	経常外費用計	3,133,069
2 管理費	14,688,327	前期繰越正味財産額	33,640,869
経営費計	90,953,857	次期繰越正味財産額	34,104,554

(単位：円)

以上、NPO会計基準に従ってご報告いたします。ADDSは今後も財務の健全化と透明性に努めてまいります。

ADDSの活動は、みなさまの寄付でささえられています

子どもたちの可能性を見過ごさない社会へ

皆様からの寄付が、未来の子ども達の成長を支える力になります。

皆様からの暖かいご支援をお待ちしております。

◆1日1歩コース

1日1歩ずつでも、1年で365歩も前に進める！
1歩1歩確実に成長して欲しい。そんな願いを寄付にも込めて。

1日10円×365日=3,650円コース



◆3,000～10,000円コース

子ども達の成長を、いつも変わらず見守っていきたい。
1回でも毎月でも変わらぬ気持ちが入ったコースです。

3,000円コース・5,000円コース・10,000円コース

◆自由にいつでもコース

今日は素敵なことがあったから、頑張っている子ども達にも分けてあげたい。思い立ったその時に、自由にいつでもいくらでも。

※金額は自由にご指定いただけます。



寄付は振込口座またはクレジット決済がご利用頂けます

●口座振替(寄付申込書のご提出をお願いします)

三菱UFJ銀行/恵比寿支店/(普)0284405 特定非営利活動法人ADDS

●クレジット決済・寄付についての詳細はコチラをご覧ください

<http://www.adds.or.jp/support/donation>



団体概要

正式名称	特定非営利活動法人ADDS
所在地	東京都杉並区荻窪5-16-14カパビル5F(ADDS Kids 1st 荻窪)
施設概要	児童発達支援事業・主たる事務所
共同代表(理事)	熊 仁美 竹内 弓乃
理事	原 由子 加藤 愛理
監事	河野 良雄
法人資格取得	平成23年12月16日
正職員	33名
非常勤職員	23名
運営事業所	<p>■ADDS Kids 1st 鎌倉 〒248-0014 神奈川県鎌倉市由比ガ浜三丁目11番48号 由比ガ浜こどもセンター 3F 施設概要:児童発達支援事業、相談支援事業</p> <p>■江戸川区発達相談・支援センター(指定管理) 〒132-0031 東京都江戸川区平井四丁目1番29号 施設概要:児童発達支援センター、相談支援事業、発達障害相談センター</p>

